

有限会社 パックス

宮城県
仙台市青葉区南吉成
6-6-3 ICR 2F

1999年(平成11年)設立
022-279-8817

<http://papapapax.jp>



代表取締役
工藤 朗人

産学連携でテラヘルツ波 を利用した製品を開発

産学連携でテラヘルツ波を利用した製品を開発。世界に先駆けてテラヘルツと可視光を透過する画期的な製品を製造・販売。

テラヘルツ波(*)を利用した製品の開発・製造

テラヘルツ波は人体に対して安全な上に高感度な非破壊検査が行えるため、米国におけるテロ発生以来、郵便物内の炭疽菌検出などの用途で注目されている。その他、癌治療など医療応用においても期待されており、近年世界的に急激な発展を示している新技術領域である。

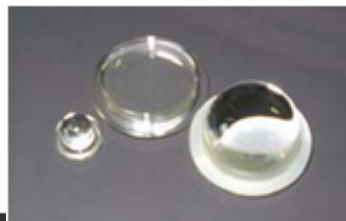
同社で販売している「Tsurupica」は、これまでのテラヘルツ波用光学材料には無い、優れた性能を持ち、世界に先駆けてテラヘルツと可視光を透過する画期的な製品として2004年に販売を開始している。

テラヘルツ波:電波と光の中間の波長で、周波数が100G(ギガは10億)Hzから100T(テラは1兆)Hz程度の電磁波を指す。

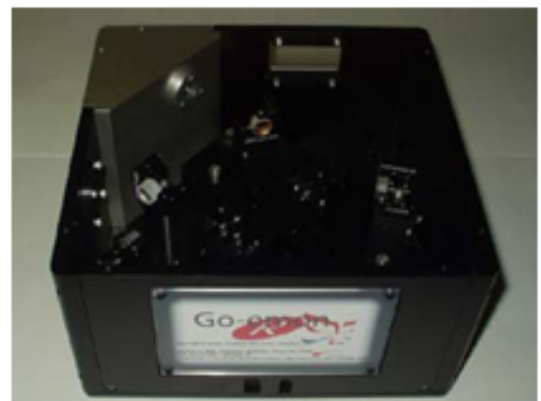
テラヘルツ波を利用した製品の優位性

テラヘルツ波と可視光を同時に透過する材料はダイヤモンドであるが、「Tsurupica」は价格的に優位であり、現状では競合製品は皆無である。

国際学会で発表された数々の論文にも、「Tsurupica」製品を使用した実験例が多数記載されており、テラヘルツ波で実験する場合の標準光学部品として国際的に確固たる地位を確立している。



テラヘルツ波用レンズ、ウィンドTsurupica
(独)理化学研究所基幹研究所 先端光科学研究領域
テラヘルツ光研究グループ テラヘルツ光源研究チームと共同開発
(特許第4183546号: RIKEN&パックス)



テラヘルツ波発生システムGOEMON-R
(独)理化学研究所基幹研究所 先端光科学研究領域
テラヘルツ光研究グループ テラヘルツ光源研究チームと共同開発